

2023年度 寒地土木研究所一般公開開催報告

国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所 寒冷沿岸域チーム
水産土木チーム

2023年度寒地土木研究所の一般公開を6月30日(金)・7月1日(土)の2日間にわたり開催しました。今年、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ変更されたことから、入場制限を設けない開催となりました。初日は雨に見舞われるなどありましたが、2日間で合計1,407人のお客様が来場され、コロナ禍前の水準を上回る盛況ぶりとなりました。各研究チーム・研究ユニットが工夫を凝らした研究内容の紹介により、子供たちだけでなく大人の皆様にも実験・体験・発見を楽しんでいただきました。



水産土木チームの展示状況
(大型水槽での展示)

寒冷沿岸域チームでは「みて・ふれて学ぼう！波の不思議」をテーマに、大型平面水槽の造波装置で起こした波を模型の防波堤に作用させる実験のデモンスト



寒冷沿岸域チームの展示状況
(大型平面水槽で起こした津波が防波堤に作用する様子)

レーションを行うとともに、流水模型の組み立てコーナーを設けました。大型平面水槽では防波堤が波浪から港を守る様子を皆様真剣に見学され、この体験を通して港と波への理解を深めていただきました。流水模型の組み立て体験でも多くの親子連れの方々が来られ、親子で一生懸命に模型作りにチャレンジしました。



寒冷沿岸域チームの展示状況
(流水模型の組み立ては親子連れに大人気)

水産土木チームでは「Viva la “MOBA”」～なまらすごい藻場～と題して、藻場の大切さを学んでいただきました。説明用パネルによる藻場の解説や、藻場の観察状況や海中の様子を撮影した映像の上映により、藻場に対する理解を深めたほか、水産土木チームが研究対象としてきた北海道沿岸域に生息するナマコ、ヒトデ、ウニ、貝類、ホヤ等を大型水槽に展示し、希望した見学者がそれらを手に取って触れられるようにしたところ、子供から大人まで大人気となりました。

また、アンケート結果の「楽しかった・勉強になった・特に印象に残ったチームはどこですか」の設問では、全14チーム中、得票数で寒冷沿岸域チームが1位、水産土木チームが2位と、お客様からの評価も高く、とてもよい結果を残すことができました。

来年も多くの皆様のご来場をお待ちしております。



水産土木チームの展示状況（生きている水産生物にふれてみた）



ものづくりサステナフェア 2023 への展示報告

国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所 水産土木チーム

7月20日(木)、アクセスサッポロにて「北洋銀行ものづくりサステナフェア 2023」が開催されました。4年ぶりの開催となった今回は、出展者(136社・団体)、来場者(約4,000名)と多くの方々の来場があったようです。

水産土木チームからは、寒地土木研究所のブースにて岡山県倉敷市の魚礁メーカー海洋建設株式会社と共同開発したナマコの間育成礁「ナマコのゆりかご」を展示しました。

「ナマコのゆりかご」は、幅60cm、奥行きと高さが各55cmの高密度ポリエチレン製ネットの中に、ホタテの貝殻を25枚ほど並べた円筒形のパイプを上下2段に3本ずつ配置した構造になっており(総重量約45kg)、漁港内など静穏な場所に設置して使用します。過去の実証実験においては、「ナマコのゆりかご」に種苗を放流することで稚ナマコの生存率を大幅に上昇させることに成功しています。またホタテの貝殻に付着した微生物等の有機物が餌となり、ナマコの成長を



促進する内部構造になっています。

ナマコは中国料理などで黒いダイヤと呼ばれ珍重されていますが、北海道のナマコはいぼが多い独特の形状から特に人気があり、高値で取引されています。「ナマコのゆりかご」は、漁業地域の活性化に寄与するナマコの資源回復と安定した漁獲量の維持のために、各自治体や漁業関係者から注目されています。



寒地土木研究所の展示ブースの様子



「ナマコのゆりかご」の展示状況